



Twitter 開設中！

@jtsue_yamanashi

2022.5.4 No.56

知床観光船の事故で「命」を守ることを考える

4月23日、北海道知床半島での観光船遭難事故から10日以上が経過しましたが、乗員・乗客26名のうち、14名が亡くなり、12名が未だ見つかっていません。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに未だ見つからない方々の1日にも早い救助を強く願っています。

原因究明も早急に明らかにするべきですが、これまでに指摘されている主な問題点では、

- ・船体の装備が不十分だった (GBS プロッターの非搭載、衛生電話故障など)
- ・運航会社の事務所のアンテナが破損していて、無線のやり取りができない状態だった。
- ・現在の社長になってから、他社との連携 (事故防止のため、同時期に運行するなど連携) を離脱。(離脱後、連携していた他会社が「危ない」と言っても話を聞かず、運行していたことも明らかになっている。
- ・ベテランを解雇した結果、経験不足の乗員ばかりになった
- ・社長の記者会見で明らかになってきた安全軽視の姿勢
(条件付き出航を認め、海が荒れるようであれば引き返すように社長の判断で決めていた) (これに対し、国土交通省は「安全管理規程のルール上、荒れる恐れがある時は出航しない」と条件付き出航の考え方を否定している)

が挙げられています。

JRに言い換えると、2005年に発生したJR西日本福知山線脱線事故でも会社の安全軽視が明らかになってきました。JR東日本では2020年から始まった「新たなジョブローテーション施策」により、経験豊富な社員の強制配置転換が相次いで行われています。私たちはこの観光船事故を決して、他人事と思ってはなりません！お客さまの命を預かる業界として、なぜ、繰り返し「命」を奪ってしまう事故が起きてしまうのか、一人ひとりが真摯に向き合っていく必要があります。

「命」を守るために私たち働く側に必要なことは？

今一度考えて、向き合ってみよう！

